

自動車整備技術の高度化検討会(報告書概要)

1. 背景

近年、自動車の安全・環境性能の向上に伴い、電子制御による新技術の利用が広がっている。この優れた性能を維持するためには、新技術に対応した適切な点検整備を行うことが重要であり、故障を診断し必要な整備が効果的に行うことができる汎用型のスキャンツールの活用促進や整備要員の技能向上等の人材育成が求められている。

このため、整備技術の高度化のあり方や具体的な方策について検討する「自動車整備技術の高度化検討会」を平成 23 年 8 月から開催し、平成 24 年 7 月には、スキャンツールの標準仕様等の中間とりまとめを行った。このとりまとめにおいて、今後解決すべき課題として整理した整備事業の IT 化、ネットワーク化の推進や人材育成等の課題について、同検討会を継続し、今般、最終とりまとめに至ったものである。

2. 検討会でまとめられた方向性

(1) 環境整備の方向性

①整備事業のIT化、ネットワーク化の推進

スキャンツールの普及に伴い、インターネットを利用して、点検整備等の際にスキャンツールで得られた故障診断情報を整備事業者間で情報共有することにより、整備技術の高度化を進めることが求められている。このため、自動車整備業界におけるネットワークの中で既に活用が進んでいるFAINES(自動車整備情報システム)を活用し、スキャンツールと連携して、あらゆる車両の点検整備を的確に行えるシステムを構築することが重要である。したがって、FAINESの利用状況調査を実施することにより整備現場が必要としている情報を把握し、その情報を充実させていく必要がある。また、整備現場へのIT化、ネットワーク化の普及に当たっては、より安価で入手しやすい環境を提供できるようにしていく必要がある。

②国際化への対応

スキャンツール等の整備機器を活用して、適確に点検整備を行うための情報の利活用や故障診断を行う技術は、欧米諸国のみならず他の諸外国にも普及していくものと考えられる。このため、今後は、欧米諸国等の動向も見つつ、J-OBD II 等点検整備情報の提供の適切な運用とその拡充を進めるとともに、点検整備に関する情報等の標準化を進めていくことが求められる。

(2)人材育成の方向性

①一級整備士資格者の活用

今後益々進展する技術に対応していくためには、高度な知識や技能を有する一級整備士の人材育成が必要不可欠である。このため、一級整備士に求められる知識・技能に鑑み、自動車技術の進歩に的確に対応し総合的な点検整備技術や法令知識を必要とする自動車検査員について、整備主任者実務経験、自動車検査員教習の実施方法等の見直しを検討し、一級整備士資格取得の優位性を図っていくことが求められる。

また、スキャンツール活用事業場認定制度が日整連を中心に平成25年度から開始され、

一級整備士を有する整備事業場が優位性を有することから、今後、一級整備士を保有する事業場を効果的にPRする方策も、一級整備士の需要の掘り起こしに繋がるものと考えられる。

併せて、一級整備士資格取得の優位性に資するためには、整備事業場における一級整備士の役割や待遇の実態、整備現場の期待等を正確に把握した上で、整備事業場における効果的な仕組みや方策も検討していく必要がある。

②教科書の改訂

人材育成においては、新技術に対応した教材が必要である。このため、教材として使用する教科書の内容を新技術に対応したものとするには、自動車の設計、製作、整備等の幅広い分野に技術的な知見を有する者等の必要な人材を確保し、改訂作業に必要な環境を早急に整備していく必要がある。また、現状の技術内容や課題を踏まえ、一級、二級及び三級の全体像やバランスを考慮した上で、改定作業を進めていくことが求められる。

③特殊整備における新技術への対応

電装品、車体及びタイヤといった特殊整備の分野においても、新技術の普及により、特殊整備士に求められる知識や技能が急速に変化している。このため、これらの実態や技術の進展に対応した今後の役割も踏まえ、特殊整備士に求められる知識や技能の検討が必要である。

3. 将来の検討事項

①IT化、ネットワーク化された点検整備情報の利活用

点検整備情報等がIT化、ネットワーク化されることにより、検査現場においても、この情報を活用し、自動車の改造確認の効率化、スキャンツールを利用した基準不適合のおそれのある箇所の的確かつ効率的な検査、事故防止に資する不具合情報の充実等の活用方法が見込まれることから、その具体化に向けて検討を進めていく必要がある。

②一級整備士資格試験の円滑な実施

新技術に対応した一級整備士資格者の活用方策の検討・実施に伴い、今後、一級整備士資格試験受験者の増加が期待される。この資格試験は、受験者数が急増した場合、特に、口述試験項目について、試験施設の確保や実施体制の拡充といった面で試験実施に支障を来すおそれがある。このため、このような場合を想定し、資格試験の円滑な実施に向けて、二種養成施設及び二種養成施設における修得内容を見直し、その修了者は、実技試験と同様に、資格試験の口述試験項目を免除する等の方策を検討していく必要がある。

③魅力ある整備士の環境整備

自動車大学校や整備専門学校、及び自動車短期大学への入学者はここ数年減少傾向にあり、特に二級コースでは10年間で半減し、自動車整備士が不足してきている。このため、自動車整備業界全体の魅力を高め、自動車整備士を目指しやすい環境を整備していく方策も検討していく必要がある。